

学科近況

学科だよりの前号発行から半年経ちました。1年生はすっかり「高専生」らしくなり、2年生は上級生としての自覚を持ち、3年生は研修旅行で将来のキャリアについて考え、4年生はインターンシップを経験して進学、就職に向けての活動を始め、5年生は卒業研究の最終段階を迎えています。

各学年の詳細な様子については学科担任から紹介があります。後学期も中間試験を終え、今年度も実質的には1ヶ月半で終わりです。全員進級を目指して、残りの授業の取り組み、期末試験の準備をして欲しいと考えています。

また、新年を迎えご家族でも高専での勉強のこと、将来のことなど話す機会を設けてください。

(学科長：正木 忠勝)

各学年の話題 (1年生)

入学から9ヶ月が過ぎ、1年生の多くが、みちがえるほど変化したと思います。しかしながら、ものごとの変化というものは、よい方へと向かうものだけではありません。成績に問題がなく、学校からも何も言われないので、「大丈夫」と周りの誰もが思っていたのに、ある日突然たまたま問題が爆発的に表面化する、ということもあり得ます。学校では大人が子供に「あたりまえと思わず、感謝の気持ちを持ちましょう」という言葉をかけている場面によく遭遇します。しかし、それは大人にも言えることです。学生が「問題なく」過ごしているのは、その学生が問題を自分で表面化しない範囲に収めているだけで、問題がないわけではありません。「問題がない」ように見えることは決して「あたりまえ」ではないと思います。高専進学という中学生の決意は、5年(本科卒業)から7年(専攻科修了)の長い学生生活においては、変わらない方が珍しいでしょう。1年生は、これから卒業までに、大きな変化を乗り越えていかなければならないのです。大人もまた、今あることを「あたりまえ」と思わず、お互いに存在や努力を認めあいながら、学生一人一人

が自分のより良い将来を追求できるように、協力していければ、と願います。

(1年学科担任：西村 篤)

各学年の話題 (2年生)

11月中旬から始まった後学期中間試験が先日やっと終わり、学生たちはホッとしているところだと思います。2年生まではまだ一般科目の方が多いですが、3年生からは専門科目が増え、更に難易度も上がっていきます。そのため、予習・復習をきちんと行わねば講義内容をなかなか理解できなくなってきます。2年生も残り僅かとなりましたが、この期間にしっかり予習・復習する習慣を付けて欲しいと思います。それから、本記事執筆時点ではまだ先のことですが、12月12日(水)のLHRは「学科別」で行われます。この学科別LHRでは、キャリア教育の一環として、メディア情報工学科5年生の崎間祐太さんと宮里勇也さんの2名に就職、および進学について、どのようなことを考え、そしてどのような準備を、いつから始めなければならないか、などの具体的に経験したことをお話ししてもらう予定です。進路について考えるのに早すぎるということはありませんので、是非、先

輩たちのお話をきっかけに将来の進路について考えてもらえたらと思います。学生の皆さんには将来何になりたいか、どのようなことをしたいのか、などのことを常日頃から考えてもらえるよう、ご家庭でも、進路についてのお話をして頂ければと思います。

(2年学科担任：佐藤 尚)

各学年の話題(3年生)

10月27日(土)と28日(日)の両日は、高専祭でクラス企画として屋台を行いました。12月4日(火)から12月7日(金)にかけては、38名の学生が東京への研修旅行に参加しました。研修先は、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社、エキサイト株式会社、合同会社DMM.com、ピクシブ株式会社、日本科学未来館でした。



DMM.comでの記念撮影。

旅行の第1日目には、メディア情報工学科の卒業生10名を宿泊先のホテルに招いて、先輩との交流会を行いました。高専に進学したことや、卒業後の進路について迷いや不安を感じがちな3年生にとって、社会の中で頑張っている先輩の姿は、大いに励みになったことでしょう。2月には後学期期末試験があります。クラスの全員が4学年に進級できるよう、関係者全員で力を合わせて頑張ることができればと思います。

(3年学科担任：タンスリヤボン スリヨン)

各学年の話題(4年生)

インターンシップも無事に終え、就職活動が本格的に始まりました。経団連による採用選考指針にのっとると就活解禁日は3月1日となりますが、企業の動きは早く、経団連に所属しないIT系企業は、すでに採用活動を行っています。就職活動では、これまで身に付けてきた実力はもちろんのこと、その活動自体を積極的に行う行動力が求められます。学生と話をしているとまだまだエンジンはかかっていないようです。私も後押ししますが、ご家庭に置かれましても就職活動の雰囲気づくりにご協力いただければと思います。

学生生活の様子としましては、高専祭が10月に開催されました。4年生は「千と千尋の神隠し」をテーマにリアル脱出ゲームを手作りで開催し、多くのお客さんが集まって大盛況でした。また、5年次に行われる卒業研究の研究室配属も始まっています。各研究室の定員が決まっているため全員が希望の研究室に配属されるわけではありませんが、卒業研究を行うこと自体に意味があります。高専5年間の集大成となりますので積極的に取り組んでほしいと思います。

前回の学科だよりにも書かせていただきましたが、就職・進学に向けてとても重要な時期です。保護者の皆さまも是非、お時間を作ってください。将来について話し合ってください。改めてよろしくお願い申し上げます。

(4年学科担任：玉城 龍洋)

インターンシップの話題(4年生)

沖縄高専では4年生を対象とする必修科目「インターンシップ」を実施しています。今年度は8月20日(月)から9月21日(金)の夏期休業中に実施しました。この期間に1週間から2週間程度の期間のインターンシップに参加してもらいました。インターンシップへ参加するための準備として、6月13日(水)に外部講師を招き、ビジネスマナー講座を、6月20日(水)には女子学生を対象としたメイクアップセミナーを実施しました。7月4日

(水)には自己分析セミナー、8月17日(金)にはインターンシップに向けての最終確認を実施しました。今年度は3社インターンシップに参加する学生やインターンシップで海外に行く学生もいました。インターンシップを受け入れて頂いた企業からも非常に高評価を受けています。

インターンシップを終え、学生も無事に沖縄に戻り、10月10日(水)にはインターンシップ報告会を実施しました。インターンシップ先で体験したことを報告しました。就職活動に向けて企業の情報を共有できました。また、それぞれの学生が受け入れて頂いた企業に感謝の気持ちを込めて感謝状を作成し、それぞれの企業へ送付いたしました。

12月になりますと合同業界研究会を始点として就職活動が本格化して行きます。今年度は合同業界研究会12月12日(水)に実施しました。多くの企業の話聞くことで今後の就職活動の参考になったことだと思います。

学生は就職か、進学か、学生は大いに悩むことになるとおられます。保護者の皆様におかれましては、できるだけ学生にお話をさせて頂けますよう、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。



合同企業説明会の様子 (4年メディア)



合同企業説明会で説明して頂いた卒業生
(4年学科副担任インターシップ担当：金城 篤史)

各学年の話題 (5年生)

高専生活は振り返ってみると短く感じられるもので、5年生は卒業まで残すところ3か月余りとなりました。楽しかった高専祭などの学校イベントや、頑張った勉強やコンテストなどの課外活動、苦しみながら勝ち取った卒業後の進路など、様々な思い出を胸に、最後の高専生活を過ごしていることと思います。

今年の5年生の進路(就職・進学)希望は卒業予定者40名に対し、就職希望31名(79.5%)、進学希望8名(20.5%)です。12月11日現在の進路決定状況は就職・進学希望者は全員進路が決まっております。ここ数年は売り手市場と言われ、これから就職活動が本格化する2020年卒業予定の現4年生向けの求人も益々活況するものと予想されます。

5年生はこれから卒業研究の締めくくりの段階に入り、1月末には最終発表会、2月中旬には卒業研究報告書の提出等、一般科目・専門科目の単位習得も含め卒業に向けた大切な時期となります。体調管理をしっかり行い、3月の卒業式に全員が晴れ晴れとした姿で巣立っていけるよう、悔いのない高専生活を送ってほしいと願います。

(5年学科担任：鈴木 大作)

専攻科の話題

専攻科2年生は9月末に学位授与申請手続き、そして11月には特別研究の中間発表会を終え、いよいよ修了の2文字が見え始めてきました。今後のスケジュールとしては、来年1~2月に特別研究の論文提出、最終発表会、そして学位授与に必要な研究成果をまとめたものの提出などがあります。最後まで気を抜かず頑張ってもらいたいと思います。また、専攻科1年生は、8月に特別研究の報告会を終え、2月に2回目の報告会を行う予定です。専攻科では本科5年次の卒業研究よりも高度な研究を行うことが求められており、その成果は研究会や学会等でも発表されています。早い段階で進路を専攻科進学に定めた学生にとっては、本科5年次より3年計画でじっくり腰を据え

て研究に没頭できる環境が得られることとなります。また、更に専攻科からは企業への就職のみならず、大学院へと進学することも可能で、様々な進路を選択することができます。早い時期から技術を学び始める本科生よりも更に専門領域を深化させられる専攻科生は、社会で今後益々求められるようになっていくものと期待しています。

(情報工学コース副主任：佐藤 尚)

その他学科内の話題

■受賞

- NICT オープンハウス ポスターセッション
最優秀ポスター賞
岸本 善生 (4年)
呉屋 愛恵 (3年)
- 高専プログラミングコンテスト
課題部門 特別賞
玉那 覇壱世 (5年)
岸本 善生 (4年)
幸地 輝空 (2年)
- パソコン甲子園
モバイル部門 グランプリ
小室 凜央 (3年)
真嘉比 浩乃 (3年)
- PARADISE JAM
審査員特別賞
伊佐 龍拓 (2年)
慶田 神乃恩 (2年)
比嘉 風 (2年)
伊藝 巧也 (2年)
- OKINAWA ビジネスプランコンテスト
プレゼンテーション賞
金城 樹里 (4年)
金城 拓登 (4年)
島袋 滉希 (4年)
宮里 颯斗 (4年)
與那覇 一真 (4年)

アイデア賞

- 新城 慧悟 (4年)
- 金城 上総 (4年)
- 具志堅 大河 (4年)
- 仲村 玲奈 (4年)
- 宮里 海依 (4年)

富士通部門賞

- 垣花 周 (4年)
- 岸本 善生 (4年)
- 喜納 瑤夏 (4年)
- 知花 朱里 (4年)

ゲレグドルジ ミンジン (4年)

- X-Tech Innovation2018
優秀賞、ピッチバトル1位
上原 すみ加 (1年)
酒井 玄 (1年)

編集後記

学科だよりも平成30年度で13年目となります。15歳から20歳まで(専攻科だと22歳まで)という、不安定で変化の大きい時期に学ぶ高専の教育課程には勉強以外にも実に様々な教育的課題があるものだと認識しています。学科教員一丸となって、多様な教育的課題に向き合っていきたいと思えます。学科だよりもに関するご意見ご要望がございましたら、是非下記連絡先までお知らせください。また、学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

編集担当者連絡先：

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905

沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科

タンスリヤボン スリヨン

TEL 0980-55-4003 (代) FAX 0980-55-4012 (代)